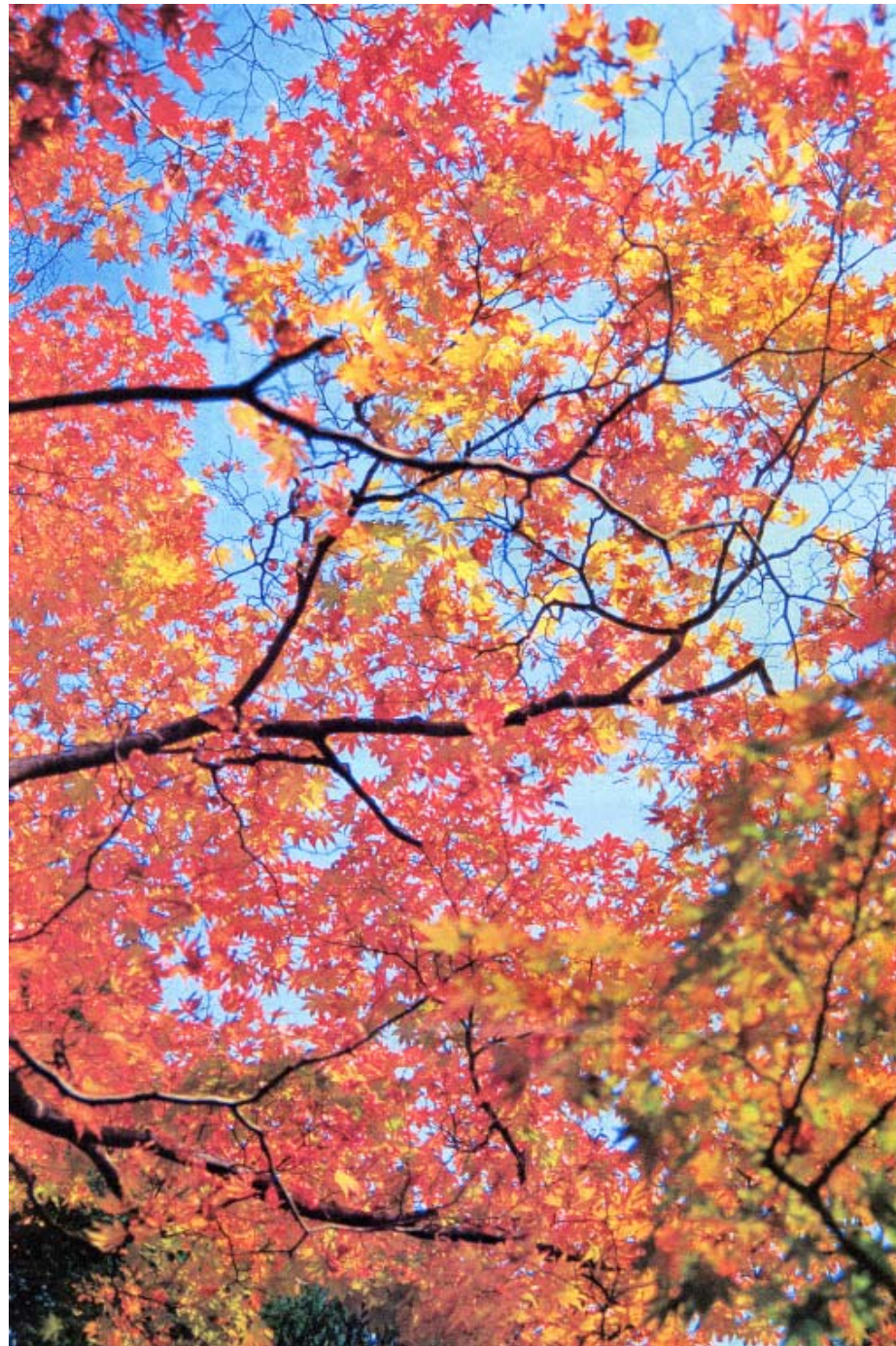


春は桜、秋は紅葉。いにしへの
王朝人は、自然の織り成す色に、
心を重ねて生きてきた。

1998年(平成10年)11月の京都。
池田SGI(創価学会インタナシ
ョナル)会長が、晩秋のもみじに
シャッターを切った。

鮮烈な紅は、いわば生命を燃や
し尽くした木々の夕映え。これか
ら厳しい冬を迎えるが、葉を落
した裸木には新芽が息づき、再び
新生の春がやってくる。苦難を乗
り越え、師と共に、我らも三世の
勝利の旅路を進んでいきたい。



「常樂我淨」の 人生を楽しく

聖 教 新 聞

2015年(平成27年) 12月13日(日)



同志と心からのあいさつを交わす池田SGI会長
夫妻。SGI会長は「いつもお子さんの成長、皆
さんのご健康、ご長寿を祈っています」と（1991
年2月、宮崎市の宮崎平和会館で）

厳冬を越えてこそ
春の喜びも大きい。
季節の変化があるから
一年は美しい。
人生も同じである。
山もあれば、谷もある。
しかし、強い生命力と
豊かな智慧があれば、
あらゆる人生の苦難も

全部、楽しみながら、
乗り越えていける。
何ものにも揺るがぬ
「常楽我浄」の
自身となり、人生となる。
木も、小さいうちは、
少しの風にも揺れる。
大木になれば、

どんな嵐にも揺るがない。
自分が大木になれば、
どんな大風も平気である。
むしろ楽しんでいける。
そういう人生、生命へと、
人間革命していくための
信仰なのである。

簡単にできたものは、
簡単に崩れてしまう。
だれも見えていなくても、
地道に、水の流れるように、
一步一步、苦勞しながら、
堅実に進んでいく。
そこに

揺るがぬ地盤が築かれていく。
「着実」と「誠実」と「忍耐」
——ここに、人間の強さがあり、
歴史があり、原動力がある。

人生には暴風雨があり、
暗い夜もある。
それを越えれば、
苦しみの深かった分だけ、
大きな幸福の朝が光るものである。
一番、悲しかった人が、
一番、晴れやかに輝く人である。
運命を価値に転換してほしい。
その人が
人間としての勝利者である。
王者である。